

コロナパンデミック・パニック

～＜身＞の医療から俯瞰したもう一つの物語～

＜身＞の医療研究会「第 8 回研究交流会」 「ホリスティックシンポジウム関西 2022」

2019 年末に中国武漢から始まった新興コロナウイルスによる世界的なパンデミック・パニックは、COVID-19 という感染症だけに焦点を当てた「生物医学モデル」に基づき、国と感染症専門家による「隔離」「自粛」「ワクチン」などの古典的感染症対策と、「不安・恐怖」を煽るテレビや新聞などのマスメディア、そしてその背後の大きな力により引き起こされた。本シンポジウムでは、「生物・心理・社会・環境・倫理モデル」によるホリスティックに全体を俯瞰した『身心（心身）医学的な視座』から、この2年半の出来事について検証し、将来に向けての新しいパラダイムを提言する。

日時：2022 年 11 月 6 日（日）9:30 ～ 16:30（オンライン Zoom 開催）

演者・司会者プロフィール



竹林直紀（たけばやし なおき）

愛知医科大学卒。関西医科大学、九州大学にて心身医学を研修。サンフランシスコ州立大学ホリスティック医療研究所にて、バイオフィードバック（BF）や統合医療を研究。現在、BF・マインドフルネス・分子栄養療法などを取り入れた、薬を使わないホリスティックな統合医療クリニック「ナチュラル心療内科」院長。著書『心療内科医が教える 疲れた心の休ませ方』（青春出版社）、『テック・ストレスから身を守る方法』翻訳監修（青春出版社）ほか。



鳥集 徹（とりだまり とおる）

1966 年生まれ。同志社大学文学部社会学科新聞学専攻卒。同大学院文学研究科修士課程修了（新聞学）。2004 年からジャーナリストとして、医療を中心に取材活動を開始。『週刊文春』『文藝春秋』『女性セブン』等に記事を寄稿してきた。著書『新薬の罠』（文藝春秋社）で第4回日本医学ジャーナリスト協会賞大賞を受賞。『コロナ自粛の大罪』『新型コロナワクチン 誰も言えなかった「真実」』『医療ムラの不都合な真実』（いずれも宝島社新書）など著書多数。



井上正康（いのうえ まさやす）

大阪市立大学名誉教授。1945 年、戦後の広島県生まれ。岡山大学医学部卒業。インド・ペルシャ湾航路船医の後、岡山大学大学院修了（病理学）。Albert Einstein 医科大学内科学准教授、Tufts 大学医学部客員教授（分子生理学）、熊本大学医学部助教授、大阪市立大学医学部教授（分子病理学）を経て、現在、健康科学研究所所長、現代適塾塾長。著書に、『本当はこわくない新型コロナウィルス』（方丈社）ほか多数。



佐藤直樹（さとう なおき）

九州工業大学名誉教授・評論家。1951 年、宮城県生まれ。専門は世間学、現代評論、刑事法学。九州大学大学院博士後期課程単位取得退学。主な著書に、鴻上尚史との共著で話題となった『同調圧力ー日本社会はなぜ息苦しいのかー』（講談社現代新書）、『「世間」の現象学』（青弓社）ほか多数、近著に『「世間教」と日本人の深層意識ーみんな一緒にラクがいいー』（さくら舎）。



津田真人（つだ まひと）

東京都国立市にて心身社会研究所 自然堂（じねんどう）治療室・相談室を主宰。公認心理師。精神保健福祉士。鍼灸師。あんま・マッサージ・指圧師。約 30 年にわたり、地域で 1 人 1 人の＜からだ・こころ・社会＞を大切にしながら、さまざまな障がい・疾病・悩み事・困り事に当事者と共に取り組む。著書『ポリヴェーガル理論を読む』『ポリヴェーガル理論への誘い』（いずれも星和書店）など。



深尾 篤嗣（ふかお あつし）

茨木市保健医療センター所長、心療内科医、医学博士。1987 年大阪医科大学卒業。九州大学心療内科特別研究学生、神甲会隈病院内科、洛和会音羽病院心療内科部長、藍野学院短期大学第一看護学科教授などを経て現職。専門は心身医学と内分泌代謝学。代表的ソマティック心理学であるプロセスワークを心療内科診療に導入することにより、日本独特の身体概念である＜身（み）＞に焦点を当てた全人的医療（身心医学または魂身医学）の実践を試みている。

プログラム

09:15 zoom 入室開始
09:30 開会の挨拶 愛場庸雅
09:30 ～ 10:30 竹林直紀
10:30 ～ 11:30 鳥集 徹
11:30 ～ 12:30 昼休み
12:30 ～ 13:30 井上正康
13:30 ～ 14:30 佐藤直樹
14:30 ～ 14:40 休憩
14:40 ～ 15:40 津田真人
15:45 ～ 16:30
パネルディスカッション
演者 5 人＋深尾篤嗣
16:30 閉会の挨拶 深尾篤嗣

料金・お申込み種別

- 当日 Zoom ウェビナー参加
& 後日動画配信後 2 週間
● 一般：5,000 円（早期割引 4,000 円）
● ホリスティック医学協会会員：4,000 円
- 後日動画視聴のみ
（視聴期限の期限なし）
● 一般：5,000 円（早期割引 4,000 円）
● ホリスティック医学協会会員：4,000 円

司会者プロフィール



黒丸 尊治
（くろまる たかはる）
・彦根市立病院
緩和ケア内科部長
・日本ホリスティック
医学協会会長



愛場 庸雅
（あいば つねまさ）
・大阪市立十三市民病院
耳鼻咽喉科部長
・日本ホリスティック
医学協会関西支部長

竹林直紀（たけばやし なおき）

タイトル：『心身（身心）医学（ホリスティック医学）からみたコロナパンデミック』

この2年半のコロナパンデミックによる世界的混乱は、心身二元論に基づく物質中心の古いパラダイムによる「古典的感染症対策」が、いかに矛盾に満ちており全体を俯瞰する「ホリスティックな視点が欠如」した、とんでもない対策であったかを明確に示している。コロナパンデミックは単なるウイルスによる感染症という問題ではなく、それに伴う人間の身体と心の反応、社会や自然環境との関わり、そして各自の「生き方」が問われる実存的、倫理的な観点をも包括した全体を俯瞰すべき現象である。そのことを理解することなしには、コロナパンデミック・パニックは終息・終焉することはない。そのための重要な鍵となる「心身（身心）医学（ホリスティック医学）」の視点から、コロナ禍のもう一つの物語について述べてみたい。

鳥集 徹（とりだまりとおる）

タイトル：『人はコロナのみにて生きるものにあらず』

コロナ騒ぎが始まってから2年以上。政府、医療界、マスコミの公衆衛生対策は、いかにコロナを抑え込むかに「全集中」してきた。そして人々の意識も、コロナのリスクを避けることばかりに囚われてきた。その結果、国民の新型コロナワクチンの2回接種率はおよそ8割に達したが、それでもコロナは終息せず、2022年5月現在、いまだに多くの人がマスク着用をやめられずにいる。

コロナに全集中する公衆衛生対策によって、人々は幸せになれたのだろうか。現実としてワクチン接種がスタートしてから、日本人の総死亡数は大幅に増加しており、健康寿命はむしろ短縮してしまった可能性がある。「病気を診ずして病人を診よ」という言葉があるように、一つのリスクに囚われて全体を見失うことがいかに愚かであるか。エビデンス至上主義、製薬マネー支配、マスコミの偏向報道等の問題と合わせて論じてみたい。

井上正康（いのうえ まさやす）

タイトル：『生命潮流と免疫の意味論』

無症候性感染を主体とする新型コロナは、パンデミックになった時点で“トロイの木馬”の様に人々の生活圏内にあつという間に広く深く浸透した。メディアや専門家は新たな変異株が誕生する度に馬鹿騒ぎを続けたが、波が繰り返される度に陽性者は増えるものの死亡率は逆に低下した。学習能力を有する免疫系は、変異株にシームレスに暴露することで免許更新されていく。

病原体の毒性は免疫力とのバランスで決まり、人類は彼らと動的平衡で共存してきた。マスク常時着用や遺伝子ワクチン接種という誤った対策をメディアや専門家が煽った結果、人災被害や過剰反応により国が崩壊しつつある現在、どのように考え、どう対処すべきか述べてみたい。

佐藤直樹（さとう なおき）

タイトル：『世間学からみたコロナパンデミック』

昨今の新型コロナ禍が図らずも露呈させたのは、他国ではありえないような日本の同調圧力の強さだ。感染者は感染したという理由だけで、バッシングを受け差別された。じつはこの根本にあるのは、「感染より世間の目が心配」と語られ、感染者や家族が「世間」への謝罪を強いられたことに現れているように、日本独特の「世間」である。

「世間」はある種の人間関係のあり方であり、万葉以来1000年以上の伝統がある。ところがこの言葉は、societyでもworldでもcommunityでもなく、英語に翻訳できない。つまり現在の欧米には存在しない。本報告では、「世間」の構造を明らかにすることで、パンデミックで生じた日本の同調圧力の強さの理由を考えてみたい。

津田真人（つだ まひと）

タイトル：『コロナ禍に地球規模で凍りつく心身』

コロナパンデミックは、人々の側のパニックとも相俟って、世界数十億の心身をグローバルに一挙に凍りつかせた。いや今なお、そして今後も、そうあり続けるかもしれない。「安全」（予測可能性）を剥奪され、「自由」（制御可能性）を剥奪されると、「不動化」して持続可能性を保とうとする——それは哺乳類の自律神経の宿命だ。その機制を解明したポリヴェーガル理論によれば、「社会的関わり」こそが、隘路を切り開く鍵である。では「安全」かつ「自由」な「社会的関わり」とは何か？ コロナ下で一気に世を席巻したオンライン・コミュニケーションは、その旗手たりうるか？ 結局は同調圧力に帰着してしまう、私たちの関係性のリアルとは？ 検討すべき課題は山積している。

今回のシンポジウムは2種類の参加方法がございます。

- ① 当日 Zoom のウェビナー方式でのご参加。今回のシンポジウムは長時間となっておりますので、途中参加・途中退出も可能です。シンポジウム終了後録画をしたものを視聴することもできます。（視聴は11月中旬頃から2週間以内）
- ② 当日の Zoom ウェビナー参加はなしで、後日（11月中旬頃より）録画したものを視聴する参加形式です。視聴の期限はございません。当日 Zoom 参加（2週間の後日視聴付き）又は、後日動画視聴をご都合に合わせてお選びください。



申込み QR コード

お申込みはインターネットから受付中。 <https://holikan2021.stars.ne.jp/sympo/>

- 本シンポジウムは、生活習慣病予防指導士の方は、3単位取得できます。
- 本シンポジウムは「ホリスティックヘルス塾」レベルアップ講座となります。
- 本シンポジウムは「日本心身医学会専門医・認定医更新対象研究会（3単位）」となります。

その他のシンポジウムに関してのご質問はメールでお受けいたします。
シンポジウム関連の専門メール sympo@holistic-kansai.com です。